

3年生卒業が近づきました

学校教育目標：自と他を大切にできる豊かな人間性と自律して社会を生き抜く力の育成

間もなく、9年間の義務教育を終える3年生の皆さん、少し早いです、ご卒業おめでとうございます。入学前に始まったコロナ禍は、大きな波を何度か繰り返しながら、未だに収まらずにここまで来ました。ウィルスの特性も研究が進み、学校での取組に対する制限はかなり少なくなってきました。完全にコロナ禍前に戻っていませんが、方向性は示されてきました。3月15日の卒業式でのマスクに関しても、ガイドラインが示されました。ここでお願いは、マスクをしている・していないで、他人を攻撃しないことです。最終はエチケットを守った上での個人の判断です。よろしくお願いいたします。卒業式の前行われる「3年生を送る会」も、かなりコロナ禍前の状態に近いものになりそうです。2学年ごとですが、歌やメッセージの交歓が楽し



みです。卒業式でも「旅立ちの日に」の歌声が久々に帰ってくるということで本当に楽しみです。

さて、3年生の皆さんは、本校の学校教育目標である『自と他を大切にできる豊かな人間性と自律して社会を生き抜く力の育成』を、ほぼ達成できたのではないかと、教職員一同考えています。他人を思いやる気持ちと共に、自分自身も大切に。そして、自律すること、つまりは、誰もいなくても自分をしっかりとコントロールし、正しいと考える方向に導くことができるということです。後半の部分は、大人でもなかなか難しいところ。入学してすぐに休校を経験した皆さんは、学校の大切さと友人のありがたさを痛感したことでしょう。友人間のトラブルや様々な厳しい状況を仲間との絆、集団の力を創ることで、乗り越え成長してきてくれました。また、学校を「楽しむ」ことを実践してくれました。残りわずかな時間ですが、梅津中学校での生活を楽しみ、仲間との絆をさらに深めて欲しいと思います。公立高校中期選抜を控えている皆さんも、自信をもって準備を進めてください。卒業式での皆さんの晴れ姿、成長した姿、すばらしい旅立ちの日に向けて、最後の準備をして行きましょう！

伝えたいこと

- 卒業を前にする3年生の皆さんに伝えたいことが2つあります。
- 現代社会の特徴や人間の特性を自分なりによく観察し、関心を持つこと。
- 一時的に生きがいを失うことがあったとしても、それは生きる目的や意味を失うわけではないということ。

ひとつめについて説明します。現代社会の特徴として、『面倒なこと』を素通りしてしまう方がスマートで効果的だと判断される風潮があるということを知ってほしい。例えば、新しいゲームや携帯を購入したとして、その便利な使い方をいち早く覚えて使いこなす方が現実的ですよ。まさか、「なぜメールをばばと特定の相手にその内容が届くのか？」などと悩む人なんてほとんどいないと思うし、もしそんな友達がいたら正直、「面倒なやつだ」と思ってしまう人も多いでしょう。関ヶ原の戦いが何年に起こったかを知る者は多いが、その戦いに向かう多くの人々がどこでご飯を食べて、どこで寝泊まりして、どうやってトイレを済ませていたのかなんて、考える人は少ないでしょう。そんな面倒なことより、どんどんと便利に使いこなす術を学んでいったり覚えてしまったりする方が大事だと判断してしまう。つまり、「なぜそうなるのか？」と、自分の頭でしっかり根本を考えることをせず、その根本の先から出たものを手法としてしっかりと学ぼうとする。バカの壁の著者である養老孟司さんが、こんな体験を話されている。ある学生に「透明な水にインクを一滴垂らすとはじめは濁るがそのうちまた透明に戻るのなぜか」と尋ねると、その学生は少し考えて「そんなものだと思っていました。」と答えたそうです。「もしかしたら現代教育は、考えない子どもを育てていることになってはいないか。」とハツとしたそうです。なぜそうなるのかを悩むよりも、そうだとらえて覚えていく方が生徒や学生にとっては現実的なのではないかということ。また、それに加えて特に日本では、「みんなと同じようにやっていると、まずいにはならないだろう。」と、多くの人間は判断しがちであり、コロナ禍でよく耳にする「同調圧力」などもそのたくいで、「なぜそうしないといけないのか」などと自分で納得するまで考えたり調べたりできる人は大人でも少ないのではないだろうか。だから、私は言いたい。そんな時代に生きているその特徴を知り、「そもそもなぜ？」という素朴な疑問や悩みが生まれたら、それをこれから大切にしたい。なぜならば、そこに「人間らしさや自分らしさ」「世の中の成り立ち」「現代社会と未来」等大切なものが隠されているから。

ふたつめです。目標であった夢が破れたり、大好きであった人と失恋したり、挑戦し続けたけど失敗したり、そんなことでも多かれ少なかれやってくると思うのです。でも、皆さんは忘れないでほしい。「自分なってもうお先真っ暗だ」というくらい落ち込むことがあったとしても、それは「一時的に生きがいを失っただけ」であり、「あなたがあなたらしく生きることが否定されたわけでもなく、生きる目的を失ったことなんかではない」ということを。幸せは自分の心で感じるもの。心が幸せな人が増えることは世の中にとって大事なことです。日常にある幸せも普段から意識して感じてみてください。

卒業式まであとわずかですが、楽しくてさみしくて、何とも言えない時間をしっかりと感じとりながら勇気をもって当日を迎えましょう。教職員一同で皆さんを応援しています。

山本慎吾教頭先生より



口と足で描いた絵



手や足に障害がある方々が、口や足を使って描いた絵の作品展を行い、全校生徒の皆さんが鑑賞しました。それぞれの絵の作者の方が、様々な事情で障害を負い、そこから立ち上がり、心をこめて描かれた絵からは、様々な思いが伝わってきました。

1年生の皆さんは、実際に足を使って絵を描くことを体験し、その技能の高さに感動し、障害のある方との共生への考えを深めました。作品については、「手と足で描く芸術家協会」のホームページをご覧ください。

